

令和2年9月定例会（事前）
経済委員会資料 資料1
農林水産部

令和元年度 徳島県農林水産基本計画レポート 〈概要版〉



令和2年9月
徳島県農林水産部

1 農業の担い手育成及び確保

- 農業大学校やアグリビジネススクールにおいて、生産技術から加工・販売技術まで多様な講座・研修を実施し、実践力・経営力の高い人材を育成
- 「とくしま農林水産未来人材スクール」を開設し、農・林・水3分野の担い手の就業・定着に向けた、就業相談会の実施や各アカデミーの情報発信
- インターンシップや見学ツアーの実施により就業意識の醸成を図るとともに、国の「農業次世代人材投資事業」の活用等を通じ就業・定着を支援
- 女性農業者のスキルアップ研修会の開催や障がい者就労の活動支援等多様な担い手づくりを推進



インターンシップ

○新規就農者数（累計）

H27:327人⇒R元:882人（R2:1,330人）

○アグリビジネススクールの入学者数（累計）

H27:99人⇒R元:243人（R2:250人）

2 林業の担い手育成及び確保

- 第4期目となる「とくしま林業アカデミー」で、女性2名を含む15名の即戦力人材を育成
- 森林サイクルの確立に不可欠な植林作業の基礎知識や技術習得の研修会を実施し、14名の「アクティブシニア植林隊」を育成
- 新たな森林経営管理制度に基づき森林の経営管理を行う「クール林業経営体（意欲と能力のある林業経営者）」として13経営者を登録



アクティブシニア植林隊

○新規林業就業者数（累計）

H27:64人⇒R元:218人（R2:240人）

○「とくしま林業アカデミー」の修了者数（累計）

H27:-人⇒R元:52人（R2:70人）

3 水産業の担い手育成及び確保

- マリンサイエンスゾーンの人的・物的資源を活用し、第3期目となる「とくしま漁業アカデミー」で、3名の次代の浜を支える担い手を育成
- アカデミー卒業生や就業間もない青年漁業者に対する経営の安定化を支援
- ベテラン漁業者を対象とした研修会の開催や市場の視察等、学び直しの機会を創出するリカレント教育を実施



漁業現場研修

○新規漁業就業者数（累計）

H29:117人⇒R元:148人（R2:190人）

○「とくしま漁業アカデミー」の修了者数（累計）

H27:-人⇒R元:15人（R2:20人）

1 水田農業の振興

- 高温耐性品種「あきさかり」など県産米の品質向上と売れる米づくりを推進、「あきさかり」の普及拡大を見据え優良種子の生産を強化
- 展示ほ場の設置による多収品種の導入、耕畜連携の促進など、飼料用米の定着を推進
- 作業の省力化・低コスト化を可能にするスマート技術の導入実証や研修会を開催



自動給水システム

○高温耐性品種「あきさかり」の作付面積 ○水稻の多収品種の作付面積
 H27:23ha⇒R元:1,740ha(R2:1,850ha) H29:780ha⇒R元:2,017ha(R2:2,130ha)

2 園芸農業の振興

- 「とくしまブランド推進機構」と連携し、枝豆の生産拡大や梨における省力栽培技術の導入等に取り組み、園芸産地のリノベーションを推進
- 複合環境制御装置を備えた大規模ハウスの整備・活用により、施設園芸産地の生産性を向上
- 生産中止となっていた藍収穫機について、新たな機能を有する日本初の「タデ藍専用収穫機」を開発



複合制御装置を備えたトマトの大規模ハウス

○藍の作付面積（累計）
 H27:16ha⇒R元:17ha（R2:25ha）

3 畜産業の振興

- G20大阪サミット等への阿波尾鶏の食材提供や、新たなプレミアムブランド「とくしま三ツ星ビーフ」認定制度の創設など本県畜産物の更なるブランド化
- 「畜産GAP」「農場HACCP」の認証取得支援や、輸出に関する勉強会開催により、国内外の需要を取り込むための環境を整備



「とくしま三ツ星ビーフ」
 ロゴマーク

○阿波尾鶏地鶏出荷羽数全国順位 ○農場HACCP認証等取得件数（累計）
 H29:1位⇒R元:1位（R2:1位） H29:6件⇒R元:12件（R2:10件）

4 林業及び木材産業の振興

- 「スマート林業プロジェクト」を展開し、主伐にも対応した高性能林業機械の導入や路網の整備による増産対策、製材加工施設等の整備支援による流通加工対策を実施
- 大都市圏への県産材の需要を開拓、東京オリ・パラ「選手村ビレッジプラザ」に県産材を提供
- 「とくしま木づかいフェア」「第1回木育サミット」の開催を通じ木材利用を啓発



「選手村ビレッジプラザ」への
 県産材提供出発式

○県産材の生産量
 H27:32.4万m3⇒R元:42万m3（R2:48万m3）
 ○県内の県産木材消費量
 H29:14万m3⇒R元:16.7万m3（R2:16.5万m3）

5 水産業の振興

- ▶ 「水産業の成長産業化の実感」を目指すべき姿とした「とくしま水産創生ビジョン（第2幕）」に基づき、
 - ・小型魚や産卵親魚の再放流などの資源管理型漁業や種苗生産・放流などの栽培漁業を推進
 - ・県産水産物の認知度向上や鳴門わかめ認証制度の普及を推進

○水産物出荷・流通体制施設等の整備（累計）

H27:8箇所⇒R元:13箇所（R2:14箇所）

○アワビ種苗放流個数（累計）

H27:1,360千個⇒R元:2,204千個（R2:2,400千個）



ヒラメの放流

6 オープンイノベーションの加速

- ▶ 環境制御技術の導入など次世代型園芸や、アニマルウェルフェアに配慮した次世代型畜産の研究・実証に向けた協定締結により、産学官連携を強化
- ▶ ICTを活用したニンジンの栽培管理支援システムや、IoT・AIを活用し漁業者にリアルタイムで水質情報を発信・予測するネットワーク等、スマート技術の実装に向けた研究開発を推進
- ▶ 研修会や実証展示を通じたスマート技術の実用化や普及を推進



ICTを活用したニンジンの栽培管理支援システム

○新技術の開発に向けた大学・企業との共同研究数（年間）

H29:12件⇒R元:16件（R2:12件）

7 安全・安心な食料の安定的供給

- ▶ フォーラムの開催や、GAP指導員の増員、指導員の派遣等によりGAP認証取得を推進し、「持続可能性の高い農産物」の需要拡大に向けた対応を強化
- ▶ G20消費者政策国際会合や、ラグビーワールドカップ県内キャンプ及び東京オリ・パラ関連イベントに「エシカル農産物」を供給
- ▶ 豚熱(CSF)等の発生予防対策の支援等、防疫体制を強化



東京オリパラ調達基準食材を使ったおもてなしイベント

○農水省GAPガイドライン準拠以上の認証件数（累計）

H27:14件⇒R元:50件（R2:60件）

○家畜伝染病発生に備えた防疫演習・研修会等の実施

H27:11回⇒R元:13回（R2:11回）

8 食育・地産地消の推進

- ▶ オーガニック・エコフェスタを開催し、食育関連イベントに会場した約400名に「エシカル農産物」や「食」の大切さをPR
- ▶ 県産材を使った料理教室や「野菜たっぷり料理レシピコンクール」の開催、大手料理レシピサイトへの県産食材使用レシピの公開等により徳島の食の魅力を発信



オーガニック・エコフェスタ
(創作おにぎり・巻きずし料理教室)

○県産食材供給量（学校給食等）

H27:2,329万円⇒R元:2,513万円（R2:2,800万円）

1 とくしまブランドの展開

- 「Turn Table」において、県産食材にこだわったメニューや様々な企画を展開
- 「新鮮なっ！とくしま」号及び「でり・ぱりキッチン阿波ふうど号」の2台のPR車両を活用し市場や量販店、大規模イベントにおいて「阿波ふうど」をプロモーション
- 「とくしま特選ブランド」の拡大に向け、阿波おどりイベントや中京地域の大型量販店への出展、ふるさと納税返礼品への商品登録



Turn Tableでのメニューフェア

○ 「Turn Table」での販売総売上額

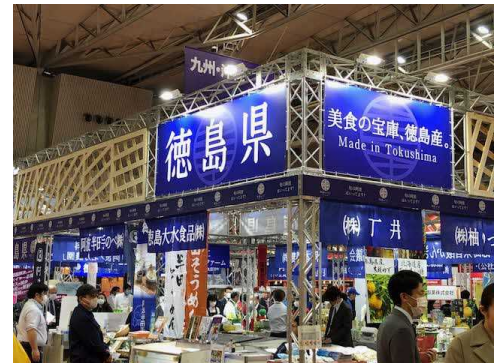
H29: -億円⇒R元:2.1億円(R2:2.3億円)

○ 「Turn Table」の利用者数

H29: -万人⇒R元3.4万人(R2:3万人)

2 6次産業化の促進

- 農林漁業者の6次産業化における課題解決を図る「6次産業化プランナー」の派遣、首都圏バイヤーによる求評会や産地商談会の開催、首都圏での大規模展示会への出展支援等により、商品開発や販路拡大を支援
- 農業大学校における地域食材を活用した商品開発や販売実習、6次産業化に取り組む事業者のスキルアップに向け「六次産業化研究施設」を活用した研修会の開催等により、次代を担う6次産業化人材を育成



首都圏での展示商談会

○ 農工商連携等による6次産業化商品開発事業数（累計）

H27:209件⇒R元:352件（R2:430件）

○ 戦略的な販路開拓のための展示会・商談会への出展数（累計）

H27:99件⇒R元:386件（R2:420件）

3 海外展開の促進

- 「とくしま三大香酸かんきつ」等の欧州市場定着に向けドイツ及びフランスにおいて「とくしま食材サロン会」を開催
- 「グローバル産地」の形成に向け、海外市場のニーズ、相手国の求める農薬規制や衛生管理等に対応した生産・加工体制の構築を支援
- 東・東南アジアを中心に県産材を輸出するとともに、台湾等の「県産材ショールーム」を活用し技術伝承や人材交流を進め、県産材の魅力を発信



令和元年10月5日～9日
「ANUGA2019」, ドイツ

○ 農林水産物等輸出金額

H27:6億円⇒R元:14億円(R2:16億円)

○ 「とくしまブランド海外協力店」数(累計)

H27:10店舗⇒R元:16店舗(R2:17店舗)

1 農業生産基盤の整備及び保全

- 農地の大区画化や汎用化，農業用水のパイプライン化等の農業生産基盤の整備，老朽化した水利施設の長寿命化，基幹農道や基幹用水路等の整備を推進
- 「農地中間管理機構」の活用による意欲ある担い手への農地の集積や耕作放棄地の発生防止・解消を推進

○ほ場の整備面積（累計）
H27:6,839ha⇒R元:7,001ha（R2:6,990ha）



ほ場整備
（沼田地区）

2 林業生産基盤の整備及び保全

- 林道・林業専用道・森林作業道等の複合路網を整備
- 森林環境譲与税を活用した新たな経営管理システムの運営支援
- 保安林，県版保安林の指定を進め，治山事業等を通じて森林の多面的な機能を維持増進

○林内路網開設延長（累計）
H27:7,242km⇒R元:7,898km（R2:7,950km）



林内路網整備

3 漁業生産基盤の整備及び保全

- 老朽化した漁港施設や海岸保全施設の対策工事を計画的に推進
- 稚魚の育成場として海域環境の変化や水産資源のライフサイクルを考慮した藻場の造成や，漂流・海底ゴミの回収・処理等の実施，浮魚礁の導入等，環境に配慮した漁場づくりを推進

○老朽化対策に着手した漁港海岸・漁港施設（岸壁等）数
（累計） H27:4箇所⇒R元:19箇所（R2:17箇所）



漁港整備
（牟岐漁港）

4 南海トラフ・直下型地震への対応

- 「漁協版BCP」や，「農業版BCP」の実効性向上を図る「土地改良区BCP」の策定を支援，避難訓練や実地訓練等を実施
- 海岸保全施設の調査・整備，重点エリアでの地籍調査の促進
- 土地改良施設の耐震化や農業用ため池等の整備を実施，市町村が取り組む農業用ため池のハザードマップの作成・公表を支援

○「農業版BCP」実地訓練等参加者数（累計） ○「漁協版BCP」の策定数（累計）
H27:247人⇒R元:758人（R2:700人） H27:9計画⇒R元:23計画（R2:25計画）



整備された
農業用ため池

5 自然災害等への対応

- 地すべり防止施設や治山施設の計画的な整備，「山地防災ヘルパー」と連携した危険箇所の日常点検等を推進
- 高潮浸水想定区域図の作成，破堤防止のための堤防補強等，高潮対策を推進
- 流木や倒木による被害の未然防止を図るため，流木捕捉式治山ダムの設置や流木の発生原因となる「溪流内」の不安定な樹木の除去，重点路線における樹木の事前伐採を推進

○山地災害の危険性が高い箇所の調査・点検パトロール
実施箇所数（年間） H29:181箇所⇒R元:196箇所（R2:180箇所）



山地災害危険地区
パトロール

1 多様な主体による協働活動と農林水産業への参画

- 地域資源の保全活動や施設の長寿命化に取り組む地域を支援するとともに、企業や団体・NPO法人等の「農山漁村（ふるさと）協働パートナー」と農山漁村の地域住民との協働活動を促進
- 小学校と地域住民による生きもの調査等の環境学習を通じ、田んぼや農業用施設の持つ多面的機能への理解を促進
- NPO法人や森林ボランティア団体等による県民参加型の森づくり活動の推進，大学等の体験林「フォレストキャンパス」の利活用など県民総ぐるみの森林づくりを推進



県民参加型の森づくり活動

○農山漁村（ふるさと）協働パートナーの協定数（累計）

H27:52協定⇒R元:71協定（R2:72協定）

○カーボン・オフセットに基づく森づくり企業・団体数（累計）

H27:123企業・団体⇒R元:158企業・団体（R2:150企業・団体）

2 移住・定住に向けた都市農村交流の促進

- 農林漁家民宿経営者に対し，外国人観光客への対応力向上に向けた研修会の実施等の受け入れ体制を整備
- 地域住民や農山漁村（ふるさと）協働パートナー等，県民との協働活動を通じて交流を促進
- 農山漁村の特色ある地域資源を「むらのたから」に認定するとともに，VR動画の作成やYouTube配信を通じ，農山漁村地域の魅力を発信



農山漁村(ふるさと)応援し隊

○とくしま農林漁家民宿の宿泊者数

H27:3,190人⇒R元:4,800人（R2:5,200人）

3 中山間地域等への支援

- 多面的機能の維持・発揮や耕作放棄地の発生防止の取組を支援するとともに，中山間地域の農業生産基盤と農村生活環境を整備
- ワークショップの開催を通じ地域住民による「魅力創生ビジョン」づくりを推進し，棚田の保全・活用等ビジョンの早期実現に向けた実践活動を支援
- 「とくしま林道ナビ」掲載情報を充実させ，市町村との連携によるPRイベントを開催



未来ある農山村づくり
（ワークショップ）

○「未来ある農山漁村づくり」に向けたビジョンの作成地区数

H27:3地区⇒R元:15地区（R2:18地区）

4 鳥獣による被害の防止

- 狩猟の知識，実践的な捕獲技術を学べる「とくしまハンティングスクール」を実施し，次世代狩猟者を育成
- 「阿波地美栄×狩猟フェスタ」の開催やジビエ料理店でのキャンペーン等「阿波地美栄」の販路拡大や消費拡大の取組を推進
- カワウの飛来数調査を実施するとともに，関係漁協が取り組む追い払いや駆除等を支援



阿波地美栄×狩猟フェスタ
(R2.1.12)

○野生鳥獣による農作物被害額

H27:123百万円⇒R元:94百万円 (R2:92百万円)

○「阿波地美栄」取扱店舗数(実数)

H29:35店舗⇒R元:43店舗 (R2:48店舗)

5 地球環境の保全への貢献

- 森林のもつ多面的機能の維持増進を図るため，間伐や植栽等の森林整備を実施し，針広混交林・複層林への誘導，広葉樹林の整備を推進
- 自然エネルギーを活用した発電施設の導入や，バイオマスの有効利用を検討・促進
- 農業用廃プラスチックの県下統一処理と再資源化を図る取組を支援



広葉樹林の整備

○間伐等森林整備面積(累計)

H29:24,552ha⇒R元:26,602ha (R2:27,000ha)

○使用済み農業用フィルム(各種ビニール類)回収率

H27:97%⇒R元:99.3% (R2:100%)

6 地球温暖化への対応

- 高温による品質低下が少なく良食味な水稻品種「あきさかり」や，高水温環境に強く収量性の高いワカメ品種の導入を促進
- 熱帯性果樹の導入に向けた低コスト栽培技術等の技術開発を推進
- 干ばつや大雨による農作物被害の未然防止や軽減を図る，農業用ため池等施設の整備，保安林の指定や治山施設の整備・保全を推進



高水温耐性ワカメ品種

○農林水産物の新品種・新技術の開発・導入数(累計)【再掲】

H29:12件⇒R元:24件 (R2:30件)